寄付のたより

～動物団体特集～

READYFOR

レディーフォー遺贈寄付サポート窓口

お気軽にご連絡ください

通話料
無料電話

0120-948-313

受付時間：平日10時～17時（年末年始を除く）

ホームページは
こちらからも
ご覧いただけます

https://izo.readyfor.jp/

ホームページはこちらから

レディーフォー 遺贈寄付

READYFOR

2023 . 5

目 次

P2-3 — READYFORについて

P4-5 — 寄付先団体のご紹介：「認定NPO法人TSUBASA」

P6-7 — 寄付先団体のご紹介：「ピースワンコ・ジャパン（認定NPO法人ピースウィンズ・ジャパン）」

P8-9 — 寄付先団体のご紹介：「公益財団法人日本動物愛護協会」

P10 — 寄付者様のお声

P11 — 寄付先団体の選び方ガイド

わたしたちREADYFOR（レディーフォー）について

当社READYFOR（レディーフォー）株式会社は、2011年3月に日本初のクラウドファンディングのサービスを開始しました。現在は日本最大級のクラウドファンディングサイトを運営しています。

会社概要 Company

社名	READYFOR株式会社
設立	2014年7月
代表者	米良はるか、樋浦直樹
資本金	1億円
従業員数	220名（2022年10月時点）
住所	〒102-0082 東京都千代田区一番町8住友不動産一番町ビル7階
加盟団体	一般社団法人日本クラウドファンディング協会 一般社団法人 日本経済団体連合会（経団連）
主な取引先	法隆寺、鹿島アントラーズ、公益社団法人日本将棋連盟、京都大学医学部附属病院、筑波大学、大阪大学、九州大学、三井住友銀行、三菱UFJ信託銀行、静岡銀行、広島県、京都府 など

筑波大学 University of Tsukuba　大阪大学 OSAKA UNIVERSITY　九州大学 KYUSHU UNIVERSITY　広島県　京都府

SMBC 三井住友銀行　MUFG 三菱UFJ信託銀行　静岡銀行

レディーフォーはみなさまの寄付をサポートします

当窓口（レディーフォー遺贈寄付サポート窓口）は、寄付に関するご相談を受ける窓口です。
ご相談は無料で承っております。ご意向や詳細が決まっていない方でも
お気軽にご相談ください。

多くの団体から適切な寄付先をご選択頂けます

当窓口は、お客様の「どこに寄付したらいいか分からない」といったお悩みに、ご意向に寄り添いながら適切な寄付先の団体のご提案をさせて頂いております。

無料でお気軽にご相談いただけます

当窓口へのご相談は、何度でも無料でご利用いただけます。

寄付金額は少額からでもご相談いただけます

当窓口でご相談可能な寄付の金額に下限はございません。お客さまおよびご家族の将来の生活に支障が出ない形でのご提案をさせていただきます。

遺言書による寄付のみならず、相続財産からの寄付や生前寄付についてもご相談いただけます

当窓口は、亡くなられたご家族の想いに沿った相続財産からの寄付や、生前のうちに寄付を始められたい方についても、税金面等含めて適切な寄付先の団体やスケジュール感等ご提案させていただきます。

ご相談から寄付の流れ

1. ご相談（お客さま）
2. 寄付先や手続きなどのご案内（担当者）
   ご納得のいくまでご相談ください
3. 寄付の実行（お客さま）
   専門家ご紹介（ご要望に応じ）（担当者）
4. お礼状などのご送付手配（担当者）
5. 最終受益者の元へ

遺贈寄付コンサルタントの紹介

北山　陽一

大手信託銀行で遺言信託の受託手続きならびに受託審査部門に携わるなど相続・遺言に関して20年近くの相談経験あり。1級ファイナンシャルプランニング技能士、准認定ファンドレイザー

早乙女　裕輔

大手銀行・大手信託銀行にて、相続・遺言などの資産承継業務や資産運用業務に従事。
1級ファイナンシャル・プランニング技能士、宅地建物取引士

齋藤　英里奈

大手信託銀行、IFA会社にて、資産運用や相続・遺言などの資産相談業務に従事。
1級ファイナンシャル・プランニング技能士、宅地建物取引士試験合格者

寄付先団体のご紹介：「認定NPO法人TSUBASA」

団 体 名 ： 認定NPO法人TSUBASA（ツバサ）

設 立 年 ： 2000年

住　　所 ： 埼玉県新座市中野2-2-22

代表者名： 松本　壯志

〔活動概要〕

「人・鳥・社会の幸せのために」を理念に、様々な理由から飼い主と一緒に暮らすことができなくなったインコ・オウム・フィンチを保護し、新たな里親を探す活動を行っている。加えて、飼い主と愛鳥が終生、幸せに健康に暮らしてもらうために、飼い鳥の適正な飼養に関する情報の提供、学びの場を日本全国で展開している。

ー鳥たちの命のバトンリレーをつないでいきたいー

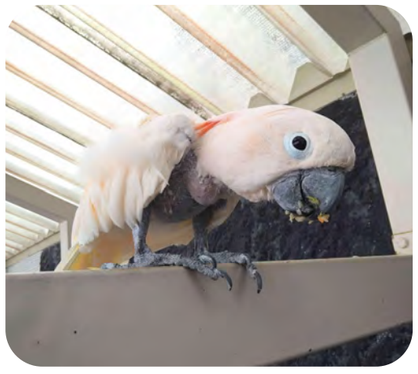
「人・鳥・社会の幸せのために」を理念に、様々な理由から飼い主と一緒に暮らすことができなくなった鳥を保護し、新たな里親を探す活動を行っているTSUBASA様の代表・松本様、寄付関連ご担当の井伊様、飼育スタッフの涌井様にお話を伺いました。

Q. TSUBASA様では、受け取られた寄付金をどのように活用されているのでしょうか？

ー鳥の飼育・保護に関する全般的な費用に活用させていただいています。鳥は体温が40度近くもあるため、体調を崩した鳥の部屋は常時温度を30度以上に保って温めてあげる必要があり、床暖房やオイルヒーター等、昨今の光熱費の高騰もありかなり費用がかかっています。また、保護した鳥が高齢であったり隠れた疾患を持っていたりする場合は、治療のための医療費もTSUBASAで負担しています。

Q. 光熱費の高騰は打撃が大きいですね。TSUBASA様にご相談に来られる方はどのような方が多いのでしょうか？

ーやはりご本人のご病気や高齢化が大きいですね。**鳥は大変長生きなので、飼育しているうちに飼い主が高齢化してしまうという**パターンは多いです。また、最近はコロナ禍で鳥を飼い始めたものの、途中で飼うのが難しくなりこちらに相談に来られる若い方も増えています。お一人でたくさんの鳥を飼育されている方からレスキューすることもあり、先日は103羽を一度に保護しました。いずれにしても、TSUBASAでは、鳥の手放し費用や事前の健康診断をお願いしているため、飼いたくないという方よりは、**鳥が大好きだけどやむを得ない事情で飼い続けられなくなった方がご相談に来られます。**



Q. 他の動物同様、鳥もコロナの影響を受けているのですね。現在TSUBASA様をご支援されている方はどのような方がいらっしゃるのでしょうか？

ーやはり鳥が好きな方が多いです。日々たくさんの支援者様からメッセージをいただくのですが、「**鳥は好きだけど今は飼える環境がないので応援してます！**」といった方や、過去にTSUBASAに鳥を預けられた方もいらっしゃいます。一度寄付をしていただくと、継続してTSUBASAのイベントやセミナーに参加してくださる方も多いですね。

Q. 寄付が一度きりで終わることなくずっと続いていくというのは素敵ですね。今回、遺贈寄付のパンフレットにインタビューを掲載させていただきますが、まとまった寄付金が入った場合に活用されたい事業・活動はありますか？

ーまとまった寄付金をいただけるのであれば、**西日本にも拠点を作りたい**と思っています。TSUBASAの里親探し事業では、里親と鳥がしっかりとマッチングし、その後TSUBASAに戻ってくることがないように直接3回来訪＊いただくようお願いしています。そのため、**現状はどうしても里親候補が関東地方に限られてしまい、日本全国へ活動を広げられていない**のが課題と考えています。レスキュー活動自体は日本全国から受けているので、里親探しもさらに広く募れるようになればと思います。

＊1回目：里親候補本人が飼育したい鳥を探す　2回目：里親候補の本人と家族全員で1回目の鳥と触れ合う　3回目：自宅で1週間トライアル飼育をしてもらう

Q. 確かに西日本にも拠点が広がれば、より多くの鳥を保護し、里親につなげることができるようになりますね。最後に、読者のみなさまへメッセージをお願いいたします。

涌井様：鳥の寿命は長いので、息の長い活動をしていきたいです。SOSが出せない鳥にも全国規模で支援ができるように活動を広げるだけでなく、続けていくことが私たちの役割だと思っています。そのためにも支援は必要なので、ぜひ活動を知っていただいて応援をお願いいたします。

井伊様：TSUBASAで働くきっかけとなったのは、里親会に出て鳥を引き取ったのがきっかけです。世の中にいろいろな保護団体がある中で、TSUBASAが他と一番異なるのは、保護することのみで良しとせず、そもそも鳥を手放さなくて済むように人に対する教育にも力をいれているところです。そういった啓発活動も一定の時間を要するので、息の長い活動をするためにも、応援いただけると嬉しく思います。

松本様：TSUBASAの最終目的は、TSUBASAから鳥をなくす（ゼロにする）ことです。そうは言っても手放さざるを得ないトラブルも生じますので、TSUBASAがその命のリレーを引き継ぐための中間を担っていきたいと思っていますし、できるだけ全国に活動を広げ、鳥の飼育問題を身近に感じもらえるようにしていきたいです。また、私も高齢になってきたので、遺贈寄付を自分でも経験して元気なうちにその経験を伝えていきたいと思います。

TSUBASA様、貴重なお話を誠にありがとうございました！

団 体 名 ： 認定NPO法人ピースウィンズ・ジャパン

設 立 年 ： 2012年

住　　所 ： 広島県神石郡神石高原町上豊松72-8

代表者名： 大西　健丞

〔活動概要〕

犬たちを保護し、愛情を込めて育てながら新しい飼い主さんを探す活動とともに、行政機関、企業、地域社会と連携しながら正しい飼い方や動物福祉の考え方を広めるための活動を実施。動物本来の生き方を尊重するアニマル・ウェルフェアに基づいた「殺処分ゼロ」の実現を目指している。

一年間600頭の犬を保護し、全国ワーストだった広島県の殺処分機は7年間稼働停止中ー

「殺処分ゼロ」の実現を目指し、行政・地域・企業と連携しながら犬の保護や里親探し、動物福祉の啓発活動に取り組むピースワンコ・ジャパン（以下、ピースワンコ）様の事業責任者・國田様（ピースウィンズ・ジャパンの国内事業部長）、遺贈寄付ご担当の榛田様にお話を伺いました。

Q. ピースワンコ様では、受け取られた寄付金をどのように活用されているのでしょうか？

ー保護した犬の飼育・健康管理、里親探しに関する費用に活用させていただいています。ピースワンコは、活動拠点であった広島県の犬の殺処分数がワースト1位だったことを受け、約10年前に「殺処分ゼロ」の実現を目指し立ち上がった事業です。**これまで約7,000頭以上の保護に取り組み、広島県の犬の殺処分機を7年間稼働停止**にすることができました。

本気で「殺処分ゼロ」に取り組もうとすると野犬の保護は避けては通れない問題で、**人に触れたことがない犬の飼育・トレーニングには多大な手間と人手がかかります。**また、保護した犬の里親探しも全国で実施しており、その運営も含めると全体で150人のスタッフを抱えているため年間10億円以上の費用がかかっています。

Q. 7年間にわたる殺処分機の稼働停止は素晴らしい成果ですね。保護された犬のトレーニングはどのように行われるのでしょうか？

ー県や市の動物愛護センターから引き取った犬たちは、私たちが運営するシェルターで保護・飼育されるのですが、最初は全く近寄ってこない、むしろ部屋の隅っこでおびえて固まってしまう犬が多いです。ですので、まずは目を合わさず、近寄りすぎず、その場所が安全であること、人間は怖くないということを伝えます。徐々に距離を縮め、人の手からご飯を食べたり、散歩ができたりするようになるまで根気強く人に慣れさせるという感じです。トレーニング期間は犬によって様々ですが、飼育員の中には、人と暮らすことに慣れるよう家に連れて帰る人もいますね。いずれにしても、**どんな犬でも手をかけてあげれば必ず人と共生**できるということをこれまでの活動で実感しています。

Q. 丁寧なトレーニングが活動の要となっているのですね。里親探しはどのように実施されているのでしょうか？

ー全国に8か所の譲渡センターがあり、譲渡会や各種イベント等の開催を通じて保護犬に関心のある方々との接点をつくっています。また、支援者のみなさまに、保護犬の里親探しへのご協力を呼びかける活動もしています。　具体的な里親探しについては、引き取っていただける方ご本人の状況はもちろん、万が一に代わりの方がいらっしゃるか、ご自宅の環境はどうか（犬が逃げないような構造になっているかなど）を細かくヒアリングさせていただきながら譲渡まで進めていきます。　ピーク時に比べると保護犬数は落ち着いているものの依然として保護と譲渡の数は拮抗しています。**一頭でも多くの犬が温かいご家庭に迎えられるよう、今後も譲渡会場に力を入れていきたい**と思っています。（直近は静岡に譲渡センターを新設予定）

Q.「殺処分ゼロ」に向けて円滑な保護活動をするためには、譲渡センターを増やしていくことも必要なのですね。全国にご支援者がたくさんいらっしゃるとのことですが、どのような声を受けられますか？

ー58,000人の会員の方々をはじめ、ご支援者は幅広くいらっしゃいますが、最近の特徴としては、SNS活動の成果もあり中高生等の若年層の方々が増えています。YouTubeやTiktokを見てピースワンコの活動に興味を持ち、**「将来こんな仕事をしたいと思うのでどんな勉強をしたら良いか教えてほしい」という声をいただくのはとても嬉しい**ですね。また、ご家族との動物にまつわる思い出から遺贈寄付のご相談をいただくこともあります。直近では、昔犬を飼っておられたご主人と奥様二人のご夫妻で、ご主人が先に亡くなられ、その相続財産を寄付したいと税理士さんを通じてご相談をいただきました。　こちらが感謝を伝えるべき立場にも関わらず、**「犬を助けてくれてありがとう」とあたたかいメッセージをいただくことも多く、今後も頑張っていこうという気持ちになりますね。**

Q. 寄付者の方々から逆に感謝されるというのはとても素敵な関係ですね。最後に、読者のみなさまへメッセージをお願いいたします。

國田様：私たちは全ての犬の命を見捨てないことを目標に取り組んでいるので、みなさまの想いを託していただけたら、全国から殺処分をなくすまで必ず取り組みを続けていきます。殺処分ゼロを目指す活動をさらに全国に広げられるよう、各地の活動団体と連携した取り組みも進めていきたいと思いますので、私たちの活動に共感してくださる方がいらっしゃればぜひ応援のほどよろしくお願いいたします。

榛田様：みなさまの想いを託していただけたら現場で必ず生かしていきます。遺贈寄付については犬舎に記念碑があり、お名前を残していただくこともできますし、一緒に暮らされているペットの保護についてもご相談いただくことは可能ですので、ご希望があればお気軽にご連絡ください。

ピースワンコ・ジャパン様、貴重なお話を誠にありがとうございました！

寄付先団体のご紹介：「公益財団法人日本動物愛護協会」

団 体 名 ：公益財団法人日本動物愛護協会

設 立 年 ：1948年

住　　所 ：東京都港区南青山1-15-15

代表者名：田畑　直樹

〔活動概要〕

動物虐待や動物の不適切な取り扱いなどが後を絶たず、年間約5万6000頭もの犬や猫が自治体の動物愛護センターや保健所に引き取られ、そのうち約1万4000頭が殺処分されている。（2021年度環境省調べ）そのような社会問題に対して、「今を生きている命は幸せに、不幸な命は生み出さない！」をスローガンに動物愛護の啓発活動をしている。

ー殺処分ゼロを超えて
～動物が幸せに暮らせる世界をつくる「4つのゼロ」～ー

「今を生きている命は幸せに、不幸な命は生み出さない！」をスローガンに動物愛護の啓発活動に取り組む日本動物愛護協会様の事務局長・廣瀬様にお話を伺いました。

Q. 日本動物愛護協会様では、受け取られた寄付金をどのように活用されているのでしょうか？

–私たちの活動の柱である**①動物の命を守る活動、②人と動物を守る社会への提言、③命の大切さを伝える活動**の運営に使わせていただいています。①については、全国から寄せられる様々な質問・相談に対して、電話やメール等でアドバイスをしたり、当協会が場所を借りて譲渡会を開催したり、飼い主のいない猫の不妊手術の助成事業を行ったりしています。ご相談は、飼っている猫の食事の相談から動物愛護に関する法改正のご要望等本当に幅広くいただいています。

また、私たちの最も大きな事業の一つである飼い主のいない猫の不妊手術助成事業では、2022年度は約5,000頭を支援しました。殺処分される動物の8割が猫で、殺処分を低減するため、当協会に申請いただく数も年々増えている中、少しでもボランティアの方々のサポートができればと思っています。

②、③については、テレビCMや啓発動画の制作・放送や、動物愛護に関する出張授業、動物愛護週間に合わせたイベントの開催などがあります。

Q. 猫の不妊手術のニーズはとても高いのですね。②社会への提言や、③命の大切さを伝える活動についてもう少し詳しく教えてください。

–②については、テレビCMの制作・放送に加えて、地域猫（特定の飼い主はいないが地域に認められた猫）の普及活動を行ったり、東京の山手線のサイネージに動物愛護週間のメッセージを流したりしています。また、和歌山県では、猫のタマ駅長と連携した動物愛護のラッピング電車を走らせる活動も実施しています。

③の活動については、小・中・高・大と幅広い学校に講師を派遣し、啓発冊子やポスターを配布し命の大切さを知っていただく機会を提供しています。直近では、私たちの提供する「命の授業」と内容がリンクした本を全国の小学校・中学校への献本しました。

Q. 啓発・提言活動は長期的な観点から不可欠なものですね。ご支援者からの声はどのようなものが多いのでしょうか？

–当協会には多くの寄付者がいらっしゃいますが、最近の特徴は若い人が多いということでしょうか。お小遣いを寄付してくださったり、出張授業を実施した小学校の生徒さんから寄付をいただくこともあるのですが、**「殺処分数の問題を親に教えました」**という心強いメッセージをいただいたり、**譲渡先の里親さんから「健康に暮らしています」というたよりをいただく**ととても嬉しいですね。また、**昨今の物価高を受け、価格が高騰しているペットフードの現物給付も地域猫活動をしている方々へ実施した**のですが、「おかげで猫たちが安心して暮らせています」という声をいただき、新たな取り組みをして良かったなと思いました。

少し余談になりますが、当協会の職員は、自らの行動が①動物のためになるか、②寄付者・会員を裏切ることにならないか、③社会のためになっているかの3つを常に行動指針としています。

Q. 子どもたちが逆に親に動物愛護の問題を教えるというのはとても心強いですね。素敵な行動指針も共有いただきありがとうございます。それでは、最後に読者のみなさまへメッセージをお願いいたします。

–最近は、動物愛護の考え方・社会問題が広く取り上げられるようになったことで多くのご支援をいただき、大変ありがたいと思っています。ただ、「殺処分ゼロ」というのはあくまで行政が実施する殺処分の数であり、当協会が考える目指すべき状態とは以下の4つのゼロが達成されている状態です。**①動物の命を捨てる人がゼロになること、②動物の命を粗末に考える人がゼロになること、③無責任な飼い主がゼロになること、④幸せになれない動物の命がゼロになること。**すなわち、**たとえ殺処分されなくても、保護施設でギュウギュウな状態で飼われている犬猫は幸せなのか？というところまで考えていきたい**と思っています。この4つの状態が達成されて初めて、真の「殺処分ゼロ」になると考えているので、私たちは啓発活動等を通じてその達成に向けて取り組んでいきたいと思います。応援のほどよろしくお願いいたします。

日本動物愛護協会様、貴重なお話を誠にありがとうございました！

F様
（60代・女性）

寄付者様のお声

～亡くなった後の財産は、子どもへの幅広い機会提供と補助犬の育成に役立てたい～

実際にレディーフォーの遺贈寄付サポートサービスを受け、ご自身の想いに沿った遺贈寄付を決められたF様に、無事に手続きを終えられた今のお気持ちを伺いました。

Q. レディーフォーの遺贈寄付サポートにご相談をしてくださったきっかけは？

–私には財産を相続させる家族がおらず、遺贈寄付を考えていろいろな財団から資料を取り寄せていた時に、TVでレディーフォーの遺贈寄付サポートが特集されているのを見て連絡してみました。

Q. どのような団体に寄付をしたいと考えられていたのですか？

–一つは、子どもへの機会提供を支援できる団体です。**最近の物価高や経済的に厳しい環境にある子どもたちにも、他の子どもと同様のチャンス（＝自分がやりたいと思ったことにトライできる機会）を与えられるようなところが良い**なと前から考えていました。その想いにピッタリと当てはまる団体を探すのに少し苦労していましたが、北山さん（レディーフォー遺贈寄付コンサルタント）からいくつか資料を送っていただき、私の想いに沿った団体をご提案していただいたので、寄付を決めました。

もう一つは、補助犬の育成に関する支援です。ご提案いただいた資料の中に載っていたのがきっかけですが、**盲導犬や介助犬など、人の役に立ってくれるワンちゃんの育成に幅広く支援をしたい**と思い2つ目の寄付先として選びました。

Q. 北山（レディーフォー遺贈寄付コンサルタント）との面談はいかがでしたか？

–私の希望に寄り添った団体をご提案いただけたのはとても良かったです。補助犬に関する団体については、似たような団体がいくつかあったのですが、**丁寧に団体ごとの違いも教えていただき、安心して寄付先を選ぶことができました。**

Q. 実際に遺贈寄付先まで決定されましたが、検討前とのお気持ちに変わりはありますか？

–それはもう、大きく安心できました。「立つ鳥跡を濁さず」ではないですが、**死ぬ準備ができれば生きていくことを楽しめる**という感じで、気持ちも落ち着き、本当に安心しました。

このように、ご健康なうちにご自身の財産の行く末をしっかり決めたいという方は多くいらっしゃいます。遺言書による寄付のみならず、ご家族の相続財産からの寄付や生前寄付についてもご相談をお受けしておりますので、ご興味ございましたらいつでも裏表紙に記載の相談窓口へご連絡ください。

F様、インタビューへのご協力、誠にありがとうございました。

寄付先団体の選び方ガイド

寄付先団体をどのように決めればよいか？と悩まれている方へ、
寄付先選びのおすすめ方法はこちらです↓

1.寄付先の活動分野にこだわりたい

医療　教育　貧困　災害支援　LGBT
子ども　障がい支援　動物　人権　難民支援　まちづくり
環境　国際協力　子育て支援　スポーツ　その他

→ なし → READYFOR財団にて、寄付が実行されるタイミングに応じて最適な団体に寄付します

↓ ある

2.寄付先団体を個別に選びたい

→ いいえ → ご希望のジャンルをご指定いただければ、READYFOR財団にてご意向に沿った団体に寄付します

↓ はい

3.団体の活動地域にこだわりたい

海外　国内　都道府県　市区町村

→ はい・いいえ →

4.団体の規模にこだわりたい

誰もが知る有名団体　比較的大きな団体　小さい団体

↓ はい・いいえ

5.寄付金控除が必要

認定NPO法人　公益財団法人　学校法人　社会福祉法人

→ はい・いいえ →

6.寄付財産の内容は何か？

- 現金のみ → 団体へ直接寄付、またはREADYFOR財団を通じた寄付
- 不動産や有価証券をそのまま寄付したい → READYFOR財団を通じた寄付がおすすめ
- 全財産をまとめて寄付したい → READYFOR財団を通じた寄付がおすすめ

＊現金以外の寄付や全財産まとめての寄付をご希望で、団体への直接寄付を強く望まれる場合は、READYFORが受け入れ可能な団体を探し、ご提案いたします。

※上記内容について具体的にご相談したい場合は、裏表紙の遺贈寄付サポート窓口よりご連絡ください。ご希望に沿った団体のご紹介、税務面のご相談、遺言書の書き方等からご相談をお受けしております。（場合によっては、専門的知識が必要になるため、士業・専門業者をご紹介する場合もございます）